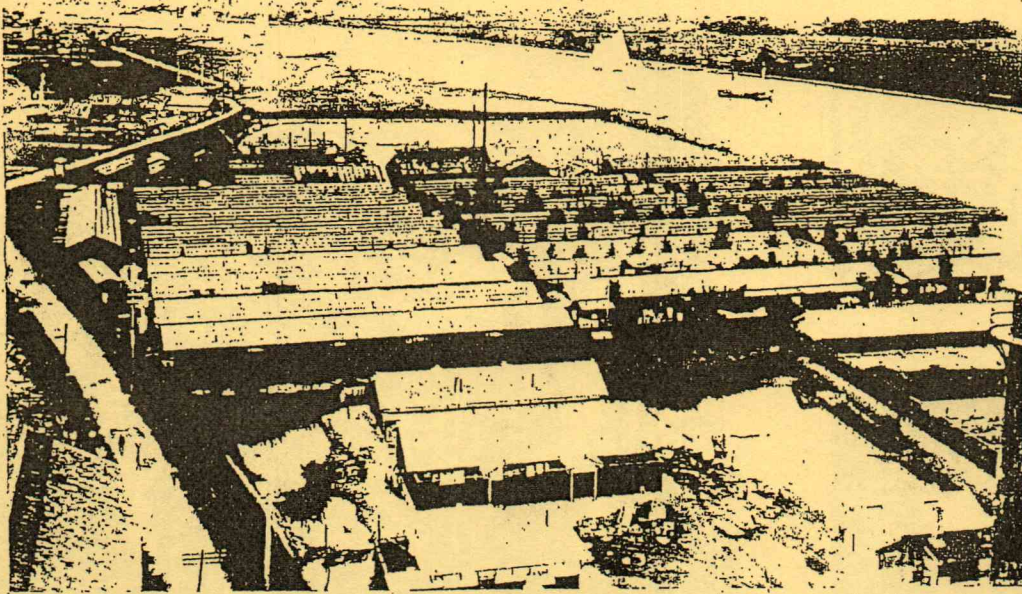


平尾亥開公園と大阪俘虜收容所

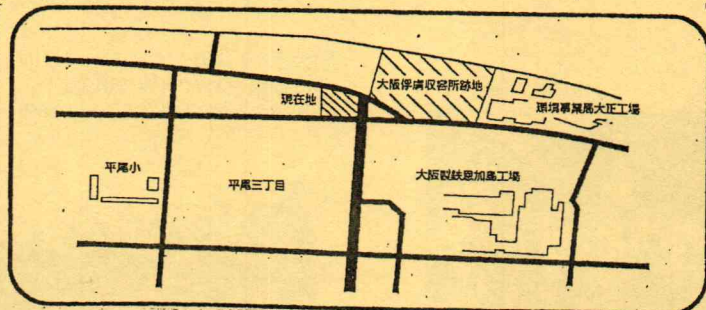
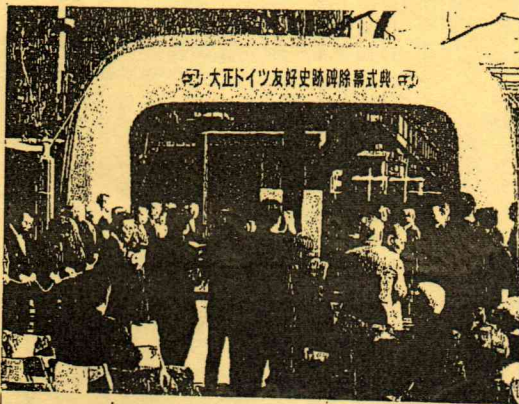


大阪俘虜收容所全景

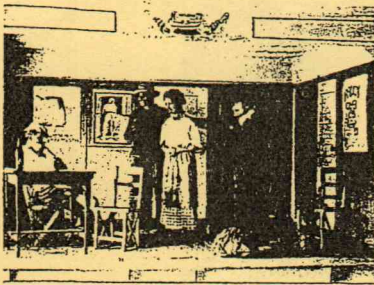
(鳴門市ドイツ館所蔵)

平尾新田は大坂江戸堀（現西区）の平尾与左衛門が開発し、明和8年（1771年）に幕府の検地を受けました。その地域の中に「亥」の年に開発されたことに因み、「亥開」と呼ばれる所（現在の南恩加島抽水所あたり）がありました。この地名から名称を取ったこの「平尾亥開公園」の東側で木津川に面したところ（現在の南恩加島1丁目）に、明治41年（1908年）にペスト患者隔離所が新設されましたが、その施設は、明治42年（1909年）の北区の天満を火元とするいわゆる「北の大火」と呼ばれる火事で罹災した延べ約22,000人の市民を收容し、所内には小学校も開設されました。

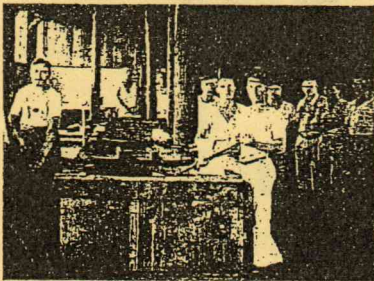
その後、第一次世界大戦の結果、大正3年（1914年）11月、中国にいたドイツ兵などの捕虜收容所が、日本各地（12箇所）に設置された時、大阪においてはこの施設が「大阪俘虜收容所」として使用され、軍人など760人を收容いたしました。捕虜は收容所にあつては、毎日の生活として朝夕2回の点呼を受ける以外の労働は特になく、娯楽として、読書、絵画、演劇、音楽、あるいはテニスやフットボールおよび器械体操などのスポーツを楽しみました。その様子を撮影した写真も現存しています。大正6年（1917年）2月、大阪俘虜收容所は閉鎖され、似島（広島市南区）へ移転しました。



大正ドイツ友好史跡碑 ～大阪俘虜收容所史跡碑～
除幕式典（平成18年2月18日：平尾亥開公園）



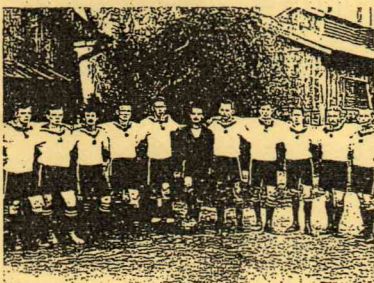
①



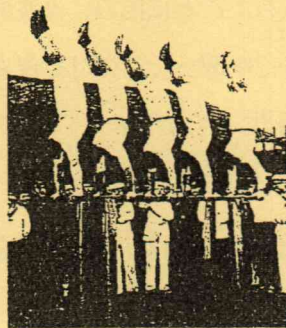
②



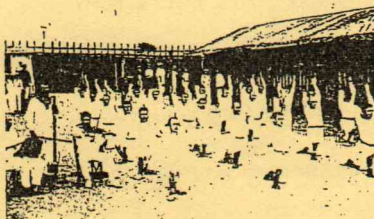
③



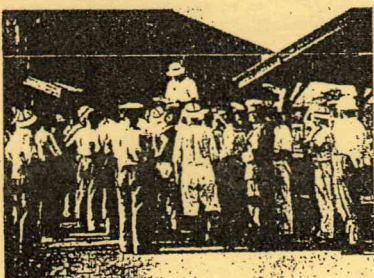
④



⑥



⑤



⑦

④ サッカーチームの写真。大阪朝日新聞の大正6年2月18日の記事には、「水兵達は平素ならばテニスやフットボール(サッカー)に打興じて」とある。

⑤ 健康のために体操をすることも盛んに行われた。敷地内に運動場ができるまでは、週に1~2回収容所付近の埋め立て地で運動を行った。

⑥ 大正5年10月の「スポーツ週間」の時に撮影された鉄棒の演技。技術の高さが伺える。(1916年10月)



⑧

① 収容所では自主的に演劇も行われた。舞台装置や女装などかなり本格的な演劇であった。

② 捕虜の暮らしは朝夕の点呼以外は自由な時間で、炊事も当番で行った。俘虜収容所を視察したアメリカ大使館書記官の報告書では「複数の調理場と提供される食事は抜群です。」と書かれている。

③ 収容された捕虜は義勇軍が多く含まれており、大阪毎日新聞大正3年11月22日の記事には「大勢の捕虜の中に一人若い水兵が一挺のバイオリンを後生大事と抱えている。」とバイオリニストがいたことを紹介している。

⑦ 郵便物の受取は捕虜にとり大きな楽しみで、特にクリスマスには中国方面や日本国内にいる家族や知人から送られた食料や衣類などの小包も多く届いた。また、捕虜の郵便料金は無料で1ヶ月1~3通家族へ送られた。

⑧ 大正6年2月18日に似島収容所へ移動。毎日新聞の記事には「木津川尻の堤防を離れる時は流石に感慨無量の体で収容所の建物を振り返った。…道幅の狭い三軒家下の町にかかると両側は見物人で埋まる。」と書かれている。